◯41番（藤野哲司）登壇　皆様大変お疲れさまでございます。私は自民党新福岡を代表して、九州大学箱崎キャンパス跡地と周辺のまちづくりにつきまして質問させていただきます。  
　九州大学箱崎キャンパス跡地は、今年の４月18日に住友商事を代表企業とするグループが優先交渉権者に決定し、まさにこれから新しいまちづくりが始まろうとしているところでございます。これまでの経緯を振り返りますと、平成23年に九大跡地利用４校区協議会から跡地の利用に関する基本的な考え方などについて提案されたことを契機といたしまして、平成25年に地域の代表などから成る検討委員会から、まちづくりの方針などについて、跡地利用将来ビジョンの提言を受け、これら提案や提言を踏まえ、周辺４校区の地域代表の方々も入った跡地利用協議会で議論を重ねた上で、平成30年に福岡市と九州大学で九州大学箱崎キャンパス跡地グランドデザインを策定されております。このグランドデザインは、これからキャンパス跡地がどのようなまちを目指していくのか、その指針が示されたものでありまして、地域住民をはじめ、多くの方々の思いが詰まっております。その中には将来構想として、「箱崎千年、大学百年の歴史を大切にしながら、このまちの発展に貢献された先人達の思いを受け継ぎ、未来の若者達につないでいけるような、『100年後の未来に誇れるまち』をつくる」と記してあります。これはまさに大学のまちとしての誇りを持つ地域住民の切なる願いでもあり、グランドデザインの実現に向けてしっかりと進めていただきたいと思っております。  
　そこで、まず箱崎キャンパス跡地の提案内容についてお伺いいたします。  
　公募では、優先交渉権者決定前に、地域からは公募主体である九州大学、ＵＲ都市機構に対し、グランドデザインを踏まえた審査で優先交渉権者を選定してほしいとの要望があったと伺っております。  
　また、優先交渉権者からは、HAKOZAKI Green Innovation Campusをまちづくりのコンセプトとして提案がなされておりまして、５月16日に公募主体の九州大学、ＵＲ都市機構から公表されている審査結果では、いずれの提案もグランドデザインに基づき、広大なグリーンフィールドである特徴を生かした創意工夫に富んだレベルの高い提案であったと総評されているようでありますけれども、優先交渉権者からはグランドデザインを踏まえてどのような提案がなされているのか、お尋ねいたします。  
　以上で１問目を終わり、２問目以降は自席にて行います。

◯副議長（松野　隆）　中村住宅都市局長。

◯住宅都市局長（中村健児）　地域とともにつくり上げたグランドデザインにおいては、都市空間、都市機能、Fukuoka Smart East、まちづくりマネジメントなどのまちづくりの方向性を位置づけており、優先交渉権者からは、そのグランドデザインを踏まえ、緑豊かでゆとりある都市空間や多様な都市機能、セキュリティー、モビリティー、エネルギーなどのスマートサービスやまちづくりマネジメントなど、様々な観点からまちづくりの提案がなされております。以上でございます。

◯副議長（松野　隆）　藤野哲司議員。

◯41番（藤野哲司）　私も九州大学、ＵＲ都市機構から公表されている優先交渉権者の企画提案の概要を確認させていただきましたが、グランドデザインをよく読み込んだ上で提案がなされていると感じております。この実現に向けてしっかりと進めていただきたいと思いますが、そこで、今後の土地利用事業者決定に向けた取組とそのスケジュールをお尋ねいたします。

◯副議長（松野　隆）　中村住宅都市局長。

◯住宅都市局長（中村健児）　九州大学とＵＲ都市機構の公募におきましては、令和７年秋頃に土地利用事業者の決定を予定しており、現在、公募主体である九州大学とＵＲ都市機構、優先交渉権者及び福岡市で提案内容についての協議を行っているところでございます。以上でございます。

◯副議長（松野　隆）　藤野哲司議員。

◯41番（藤野哲司）　令和７年秋頃の土地利用事業者の決定に向け、必要な検討や手続を着実に進めていっていただきたいと思っております。  
　また、提案内容の具体化に当たっては、九州大学、ＵＲ都市機構、優先交渉権者とともに地域の意見を聞きながら、まちづくりを進めていただきたいと思っておるところでございますが、優先交渉権者決定後に提案内容の説明は地域に対してどのように行っているのか、お尋ねいたします。

◯副議長（松野　隆）　中村住宅都市局長。

◯住宅都市局長（中村健児）　地域の代表の方にも委員になっていただいております箱崎キャンパス跡地利用協議会や箱崎、東箱崎、筥松、松島の各校区において優先交渉権者から提案内容について説明を行っており、地域からはまちづくりへの期待や周辺地域との連携などについて御意見をいただいております。以上でございます。

◯副議長（松野　隆）　藤野哲司議員。

◯41番（藤野哲司）　事業を進めていく上で地域とはしっかりとお話をしながら進めていただきたいと思っております。  
　また、グランドデザインでは、まちづくりの基本的な考え方において少子・高齢化など様々な社会課題を解決しながら持続的に発展していくため、先進技術の導入などによる快適で質の高いライフスタイルと都市空間を創出し、未来に誇れるモデル都市を創造するというFukuoka Smart Eastの考え方を取り入れております。今回の提案はこれを踏まえたものとなっておりまして、ＡＩカメラによる見守りサービスやパーソナルヘルスレコード基盤を活用した健康増進アプリといった高齢者や子どもなど誰もが安全、安心で健やかに暮らすためのスマートサービスなど、グランドデザインに示されている様々な分野において、社会課題を解決するスマートサービスが提案されております。  
　中でも特徴的なものといたしまして、省電力、低遅延、大容量の革新的な通信技術であるＩＯＷＮをまちづくりに取り入れているという点が挙げられます。このＩＯＷＮでありますけれども、ＮＴＴが開発を進めている光の技術を活用した次世代の情報通信基盤のことで、ＮＴＴによりますと、今後さらに世界中で激増する通信データ量や消費電力量に対し、高速大容量通信と電力効率の向上を両立させる技術とされておりまして、2024年の仕様確定、2030年の実現を目指して、今まさに研究開発が進められているものと承知しております。  
　福岡市はこれまで自動配送ロボットの走行、自動運転バスの公道での走行など、様々な実証実験を行ってきておりますが、これらのＩＣＴ技術を活用したサービスには漏れなく通信技術が必要となります。その通信にＩＯＷＮという革新的な通信技術を使うことで、これまでのサービスがアップデートできるだけではなく、今まで実現できなかった様々な新しい取組が可能となり、暮らしがより便利で豊かなものになるのではないかと期待しておるところであります。  
　今回、このＩＯＷＮを活用したスマートサービスや業務、研究機能としてＩＯＷＮ構想研究拠点などが提案されているようですが、ＩＯＷＮのような技術を活用しながら、スマートサービスをアップデートしていくことが必要だと考えておりますが、福岡市の御所見をお尋ねいたします。

◯副議長（松野　隆）　中村住宅都市局長。

◯住宅都市局長（中村健児）　グランドデザインを実現するため、ＩＯＷＮなどの先進技術を活用しながら、スマートサービスを継続的にアップデートしていくことは重要と考えております。また、優先交渉権者から産官学民をつなぐ体制と場を整備し、新サービスの創出に寄与する提案がなされており、スマートサービスの継続的な実装を支援するイノベーション導入支援組織について協議を進めていくこととしております。以上でございます。

◯副議長（松野　隆）　藤野哲司議員。

◯41番（藤野哲司）　ＩＯＷＮを活用して開発されるスマートサービスには期待をしておりますし、そのサービスがより便利になっていくようにアップデートの仕組みをしっかりとつくっていくことが重要であると思っております。  
　また、優先交渉権者の提案内容としてＩＯＷＮと並んで特徴的なものとして、緑豊かでゆとりある都市空間の提案がなされているようでありますけれども、これらのグランドデザインに基づいて提案されている空間が将来にわたってしっかりと確保されていく必要があると考えております。  
　そこで、今回、緑豊かでゆとりある都市空間の提案がなされておりますが、市はどのようにして将来にわたって確保していこうと考えているのか、お尋ねいたします。

◯副議長（松野　隆）　中村住宅都市局長。

◯住宅都市局長（中村健児）　優先交渉権者からは、グランドデザインを踏まえ、街角広場や歩行者ネットワークとしての５つのメインストリートの整備、緑化率40％の緑空間の確保などと併せて、それを都市計画などに位置づけることの提案もなされており、広場や緑化率などの提案内容が将来にわたって担保できるよう、都市計画を定めることなどについて協議を進めていくことといたしております。以上でございます。

◯副議長（松野　隆）　藤野哲司議員。

◯41番（藤野哲司）　提案されております歩の軸や街角広場などのゆとりある空間、緑豊かな空間を生かし、グランドデザインに記載されている、まち全体の一体感の創出や周辺地域との調和、連携、交流に向け、特徴を持ったまちの空間づくりや円滑な歩行者動線の確保など、跡地等における都市空間整備を進めてもらいたいと思います。  
　次に、九州大学が学びの拠点として活用していくこととしている箱崎サテライト付近には、優先交渉権者から教育ゾーンとして、外語専門学校やインターナショナルスクールの提案がなされているようでありまして、教育環境の充実が図られることになっております。  
　福岡市も箱崎サテライトの北側に箱崎中学校の移転を計画していることから、このエリアで学ぶ学生同士や地域住民が相互に交流できるように取り組んでいただきますように要望いたします。  
　また、業務研究機能は、北側の貝塚駅前街区や中央のイノベーションコア付近に配置する提案のようでありますけれども、周辺地域との調和、連携、交流しながら一体的に発展することが重要でありまして、箱崎キャンパス跡地内だけで完結するのではなく、周辺地域も含めた広がりのある交流を促進させる必要があると考えております。  
　跡地内で働く方や新しい住民の方、箱崎を訪れる来街者などを箱崎のまちや商店街などに導く仕掛けづくりについても、地域の声を聞きながら優先交渉権者と協力して取り組んでいただきますように要望いたします。  
　優先交渉権者の提案内容には、エリアマネジメントの項目もあるようですが、地域は新しいまちと周辺地域とのつながりという点に関心を持っておりまして、優先交渉権者には新しいまちと周辺地域とがしっかりと話をしていける体制を築いてもらうことが必要であると考えております。  
　そこで、優先交渉権者から提案されているエリアマネジメント組織ではどのような取組を行っていくこととしているのか、お尋ねいたします。

◯副議長（松野　隆）　中村住宅都市局長。

◯住宅都市局長（中村健児）　エリアマネジメントにつきましては、周辺地域とともに発展するまちづくりに向け、周辺自治協議会と協議しながら、イベントの開催や広場の維持管理、運営、まちの魅力などの情報発信やスマートサービス全体の企画、運営を行うことなどの提案がなされております。以上でございます。

◯副議長（松野　隆）　藤野哲司議員。

◯41番（藤野哲司）　新しくできるまちの一体感の創出や魅力の向上を図ることはもちろんですが、既存の自治協議会等と連携、調和し、周辺地域と一体的に発展していくことも重要です。そのためのまちづくりマネジメントの検討もしっかり行っていただきたいと思います。  
　また、跡地内の新しいまちと周辺地域は切り離せない関係であります。地域との信頼関係を築いた上でまちづくりを進めていただきますようお願い申し上げます。  
　さて、優先交渉権者が決定いたしまして、提案内容が見えてきたことにより、跡地の開発の状況を踏まえて進めるとなっていた様々な検討が進んでいくことになると思っておりますが、まず箱崎中学校の検討状況についてお尋ねいたします。  
　箱崎中学校につきましては、グランドデザインに記載されており、九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくりに合わせて、現在の筥松四丁目から九州大学とＵＲ都市機構により箱崎六丁目に移転新設することとなっております。移転新設することで校区の中心に位置することとなり、老朽化した施設が最新の施設に更新されるなど、よりよい教育環境が整備されることに地域住民は大きな期待を抱いております。  
　そこで、箱崎中学校の移転に係る現在の進捗状況をお尋ねいたします。

◯副議長（松野　隆）　石橋教育長。

◯教育長（石橋正信）　令和５年度より基本計画に着手しておりまして、本年度、令和６年度は用地を取得し、基本設計に着手する予定といたしております。以上でございます。

◯副議長（松野　隆）　藤野哲司議員。

◯41番（藤野哲司）　今年度は用地を取得し、基本設計に着手するとのことで、着実に箱崎中学校の計画が進捗しているということです。  
　今後、設計を進める中で箱崎中学校の具体的な計画が明らかになってくると思いますが、地域住民も大きな期待を寄せております。今後、設計を進めていく中で、箱崎中学校はどのような施設になるのか、お尋ねいたします。

◯副議長（松野　隆）　石橋教育長。

◯教育長（石橋正信）　グランドデザインを踏まえるとともに、柔軟な学習空間の確保や環境への配慮、防災機能の確保などにしっかりと取り組んでまいります。以上でございます。

◯副議長（松野　隆）　藤野哲司議員。

◯41番（藤野哲司）　箱崎中学校の移転においては、その移転整備と合わせて、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を推進する最先端の学びの拠点として、教育研究施設の整備を検討するとなっております。  
　新しいまちに最新の学校と最先端の教育研究施設が整備されることには、子どもたちをはじめ、保護者の方々も大いに期待していることと思います。  
　そこで、箱崎中学校の移転と合わせて検討されている教育研究施設は何をする施設なのか、お尋ねいたします。

◯副議長（松野　隆）　石橋教育長。

◯教育長（石橋正信）　様々な教育データの収集、分析を行い、その結果に基づき、授業改善や教育施策の立案に向けた研究を行うとともに、小中学校への動画等の一斉配信や大学等との共同研究を行うなど、福岡市の学びの研究拠点となるよう整備してまいりたいと考えております。以上でございます。

◯副議長（松野　隆）　藤野哲司議員。

◯41番（藤野哲司）　教育に関する様々なデータを有効に活用することは、授業の改善、新しい授業の構築につながるとともに、より有効な教育施策の展開につながっていくものと思います。  
　また、このような教育委員会の取組は、グランドデザインにおいて掲げられております、充実した教育・研究の環境を生み出し、人を育てるというまちづくりの方針にも合致すると考えられ、優先交渉権者から提案のあっているインターナショナルスクールや外語専門学校との連携や交流も期待されます。  
　この教育研究施設は福岡市全体の教育を推進していく拠点となっていくものだと思いますが、中学校と同じ敷地の中に整備されることで相乗効果を発揮することも期待されます。  
　そこで、同一敷地内の箱崎中学校とはどのような連携を想定しているのか、お尋ねいたします。

◯副議長（松野　隆）　石橋教育長。

◯教育長（石橋正信）　箱崎中学校の生徒が教育研究施設において先進的な授業を体験し、新しい学びに触れることができる機会、そういった機会を提供することなどを想定いたしております。以上でございます。

◯副議長（松野　隆）　藤野哲司議員。

◯41番（藤野哲司）　様々な教育データの分析に基づく最先端の授業をまず箱崎中学校の生徒たちが体験し、そこから福岡市の全小中学校に広がっていくことは、箱崎中学校、教育研究施設の双方にとってよいことだと思います。また、このことにより箱崎中学校区が今よりもさらに教育熱の高い、ここで子育てをしたいというエリアになっていくものと期待しております。  
　これまで地元として期待の高まる箱崎中学校の検討状況や検討内容についてお尋ねしてまいりましたが、箱崎中学校の今後のスケジュールをお尋ねいたします。

◯副議長（松野　隆）　石橋教育長。

◯教育長（石橋正信）　令和６年度から７年度に基本設計、７年度から８年度に実施設計、９年度から校舎建設工事を予定しておりまして、おおむね４年から５年程度の期間を要すると想定いたしております。以上でございます。

◯副議長（松野　隆）　藤野哲司議員。

◯41番（藤野哲司）　箱崎中学校の移転については、コロナ禍による公募の延期のため先送りとなっておりました。地域住民も大変関心を持っておりまして、様々な方からいつ移転するのかといった問合せが私に多数ありました。できるだけ早い移転に向けて進めていってもらえたらと思っております。  
　次に、九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくりに伴う小学校の通学区域についてお尋ねしたいと思います。  
　九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくりによってどれくらい児童が増えると見込んでいるのか、お尋ねいたします。

◯副議長（松野　隆）　石橋教育長。

◯教育長（石橋正信）　居住機能として分譲住宅2,000戸の供給が予定されており、これらを基に児童生徒の出現率を用いた推計をいたしますと、全体で約600人程度の児童の増加が見込まれております。以上でございます。

◯副議長（松野　隆）　藤野哲司議員。

◯41番（藤野哲司）　九州大学箱崎キャンパス跡地には、これまで人が住んでおりませんでしたけれども、現在の校区割であれば全て東箱崎小の校区となります。それが都市計画道路の整備や優先交渉権者の提案などによって、まちが大きく生まれ変わろうとしております。  
　先ほど御答弁いただいたとおり、今後、児童が増えることが見込まれておりますが、今回のまちづくりを機会に、東箱崎小と箱崎小の通学区域の変更を行う予定はないのか、お尋ねいたします。

◯副議長（松野　隆）　石橋教育長。

◯教育長（石橋正信）　先月、令和６年８月末に地域や保護者の代表などで構成する通学区域協議会を設置いたしました。今後、地域や保護者の意見を踏まえながら通学区域の変更を検討してまいります。以上でございます。

◯副議長（松野　隆）　藤野哲司議員。

◯41番（藤野哲司）　８月に通学区域協議会を設置したとのことでありますけれども、東箱崎小と箱崎小の通学区域協議会は、今後どのようなスケジュールで進めていくのか、お尋ねいたします。

◯副議長（松野　隆）　石橋教育長。

◯教育長（石橋正信）　第１回は８月に開催し、会則を定め、委員長の選任を行っております。第２回は10月の開催を予定しておりまして、通学区域の変更案や通学路等について協議を行う予定としております。その後、地域や保護者などの御意向を十分踏まえながら、年度内を目途に通学区域変更の合意に向けて協議していく予定としております。以上でございます。

◯副議長（松野　隆）　藤野哲司議員。

◯41番（藤野哲司）　通学区域を変更する際は、地域、保護者、学校の意見を聞きながら、丁寧に進めていただきたいと思います。  
　次に、道路についてお伺いいたします。  
　箱崎キャンパス跡地に隣接する箱崎校区には、跡地から筥崎宮を結ぶ通称大学通りという幅員が６メーターほどの道路があります。この道路には博多箱崎線という都市計画道路が計画されており、18メーターほどの道路に拡幅される計画となっておりますが、昭和21年に都市計画決定されてから、いまだに事業に着手されておりません。  
　このような長期未着手の都市計画道路については、全市的に都市計画道路の必要性を確認する都市計画道路の検証が行われ、平成23年度に結果を公表されております。この中で、博多箱崎線については、九州大学箱崎キャンパス跡地から馬出東浜線までの区間は見直し候補路線に選定されまして、拡幅計画を廃止する可能性がある路線として位置づけられておりますが、現在も博多箱崎線は廃止や変更の手続が行われておりません。  
　そこで、博多箱崎線については、見直し候補路線に位置づけられてから10年以上が経過しておりますが、なぜこれまで廃止や変更の手続が行われていないのか、お尋ねいたします。

◯副議長（松野　隆）　中村住宅都市局長。

◯住宅都市局長（中村健児）　都市計画道路博多箱崎線のうち、見直し候補の区間につきましては、隣接する九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくりの動向を踏まえ、都市計画の見直しの検討を行うこととしているものでございます。以上でございます。

◯副議長（松野　隆）　藤野哲司議員。

◯41番（藤野哲司）　箱崎キャンパス跡地周辺につきましては、50ヘクタールという広大な土地で開発が行われるので、当然交通への影響を踏まえる必要があることは理解しておりますけれども、箱崎キャンパス跡地の開発については、優先交渉権者が決定し、提案内容も公表されるなど、具体的にまちづくりの計画が見えてきております。  
　また、博多箱崎線が通る箱崎校区には、筥崎宮をはじめ、歴史ある建物が残り、沿道には箱崎商店街も連なるなど地域にとって重要なエリアであり、地域の皆様の努力の下、平成31年３月には建物の景観など、地域独自のルールを定めた箱崎まちづくり計画が策定され、令和６年３月には筥崎宮周辺地区が景観形成地区に指定されるなど、地域では歴史あるまち並みを生かした景観づくりに取り組まれております。  
　地域からは、箱崎校区の歴史あるまち並みを生かし、博多旧市街のように歩いて楽しめる道路にするために、都市計画の廃止に加え、歩行空間の確保や舗装の美装化を求める声も聞いております。  
　そこで、箱崎キャンパス跡地のまちづくりが具体化してきたこのタイミングで、都市計画を廃止するかどうかを判断する必要があると思いますが、当局の御所見をお尋ねいたします。

◯副議長（松野　隆）　中村住宅都市局長。

◯住宅都市局長（中村健児）　博多箱崎線の都市計画の見直しにつきましては、優先交渉権者の提案の具体化を踏まえ、博多箱崎線周辺で想定される交通の変化等の確認を進めるとともに、地域の御意見も伺いながら検討を進めてまいります。以上でございます。

◯副議長（松野　隆）　藤野哲司議員。

◯41番（藤野哲司）　地域では箱崎まちづくり計画の策定や景観形成地区への指定など、まちづくりに対する機運も高まっておりますので、博多箱崎線の見直しについては、地域の声も踏まえ、検討を進めていただきたいと思います。  
　次に、都市基盤の整備についてお尋ねいたします。  
　箱崎キャンパス跡地における都市基盤については、南エリアはＵＲ都市機構による開発行為、北エリアは福岡市施行による土地区画整理事業として、道路や公園等の整備を行うこととされております。現在、南エリアにおいては、跡地の外周道路や都市計画道路などは着々と工事が進められており、完成した部分から供用開始するなど徐々に姿が見えつつあるところです。  
　北エリアについても、仮設道路が整備されるなど、基盤整備が進められておりますが、この北エリアにはＪＲ新駅の設置も予定されております。新駅は地域からＪＲ九州と福岡市に設置の要望書が出されたことを契機に、ＪＲ九州が令和９年開業を目標として設置を公表しております。  
　現在、設置に向けた検討が進められていると思いますが、まずはＪＲ新駅の概要をお尋ねいたします。

◯副議長（松野　隆）　中村住宅都市局長。

◯住宅都市局長（中村健児）　ＪＲ鹿児島本線の箱崎－千早駅間に設置予定のＪＲ新駅につきましては、地下鉄、西鉄の貝塚駅に近接し、改札を２階に設ける橋上駅舎として計画されております。また、新駅は踏切である市道箱崎157号線を廃止する代替として、市が整備する自由通路と接続する構造となっております。以上でございます。

◯副議長（松野　隆）　藤野哲司議員。

◯41番（藤野哲司）　新駅は令和９年開業目標ということであるため、そろそろ工事に着手していく頃と思います。そこで、ＪＲ新駅の設置に向けて現在ＪＲ九州とどのような協議を進めているのか、お尋ねいたします。

◯副議長（松野　隆）　中村住宅都市局長。

◯住宅都市局長（中村健児）　ＪＲ九州が整備する新駅と福岡市が整備する自由通路や駅前広場などが同時期の施工となるため、各工事の着手に向けて施工工程やヤードの調整などを行っているところであり、引き続き協議を進めてまいります。以上でございます。

◯副議長（松野　隆）　藤野哲司議員。

◯41番（藤野哲司）　駅周辺では市で整備する自由通路や新設される駅前広場などの基盤整備が予定されているため、安全な工事のためにもＪＲ九州としっかり協議をし、準備を進めてもらいたいと思います。  
　また、貝塚駅周辺では、グランドデザインにおいても交通結節機能の強化を図ることとなっており、今回新駅が設置されることで、地下鉄、西鉄、ＪＲの３路線の駅が近接する新たな交通結節拠点になると期待しております。  
　ここで資料の投影をお願いします。（資料投影）これが貝塚駅と新駅の位置関係でありますけれども、この貝塚駅と新駅の間の距離は直線距離で約百数十メートルとなっております。この貝塚駅と新駅は、先ほどの御答弁にもありましたとおり、それぞれ地上から２階へ上がって駅を利用する構造となっておりますことから、今年の５月22日に開催されました箱崎キャンパス跡地利用協議会において、地域の代表から利便性を高めるために貝塚駅と新駅の両駅間を２階レベルでつないでほしいといった要望がなされておりました。資料の投影を終了してください。  
　そこで、この両駅間を２階レベルでつなぐことができたら、交通結節拠点としてさらに利便性が向上するのではないかと考えておりますが、福岡市のお考えをお尋ねいたします。

◯副議長（松野　隆）　中村住宅都市局長。

◯住宅都市局長（中村健児）　両駅間の結節強化につきましては、福岡市としても重要と考えており、貝塚駅の駅前広場に近接した位置に自由通路を計画することで利便性の向上を図ることとしております。両駅間を２階レベルでつなぐことにつきましては、駅周辺の土地利用計画も踏まえつつ、鉄道事業者などの関係者と協議を行ってまいります。以上でございます。

◯副議長（松野　隆）　藤野哲司議員。

◯41番（藤野哲司）　ありがとうございます。今回、優先交渉権者の構成員には、鉄道事業者であるＪＲ九州や西鉄もおられるため、福岡市も加えた３者で実現に向けた協議を進めていってもらいたいと思います。  
　次に、都市公園については、グランドデザインにおいて、南エリアでは箱崎中央公園を新たに整備すること、北エリアでは貝塚公園を再整備していくことが位置づけられております。優先交渉権者が決定し、土地利用の全体像が見えてきた中で、２つの公園は、今後、跡地内の住民だけではなく、周辺の住民や来街者、働く人など様々な人が利用し、交流する空間になるように具体的な検討が進められていくものと考えております。  
　そこで、公募範囲に囲まれております箱崎中央公園については、優先交渉権者の提案概要を見ると、公園の位置についての提案も出されているようですが、今後どのように検討を進めていくのか、お尋ねいたします。

◯副議長（松野　隆）　中村住宅都市局長。

◯住宅都市局長（中村健児）　箱崎中央公園につきましては、跡地南側の近隣公園として箱崎中学校と一体的に防災性の向上を図ることや、九州大学の近代建築物活用ゾーンの緑と連続したゆとりある空間を形成するよう計画しております。今回、優先交渉権者からは、現計画の趣旨を踏まえつつ、交流、にぎわい機能との連携が図りやすいよう、位置の変更の提案もなされているため、公園利用者や地域住民の利点などについて確認しているところでございます。以上でございます。

◯副議長（松野　隆）　藤野哲司議員。

◯41番（藤野哲司）　公園は跡地に新たに住む住民だけではなく、周辺地域に住んでいる住民の皆さんにとっても使いやすい公園にすべきであると思いますので、ぜひ提案されている民有地の広場などとの一体性、連携、交流に配慮したすばらしい公園を造ってもらいたいと思います。また、平時の使用だけではなく、災害時などの有事の使用も考慮し、周辺の建物との連携が取れるように計画していただくよう要望いたします。  
　次に、貝塚駅の西側に位置する貝塚公園についてお尋ねいたします。  
　貝塚駅の西側の道路は、南北に細長くて狭いロータリーがあるのみで、自家用車などが停車するスペースもなく、朝夕などの混雑時には歩行者と送迎車などの接触事故が起きかねない状況であります。  
　貝塚公園についても、開園から50年以上が経過し、公園施設の老朽化が進んでおります。開園時間も朝９時から夕方17時までと設定されているため、閉園時間は周辺地域の避難場所として利用できないといった課題もあり、駅前という恵まれた立地の公園にもかかわらず、大変もったいないと感じております。  
　これらの課題を解決するため、グランドデザインにおいて貝塚公園の再整備と駅前広場の新設、駅への分かりやすいアクセス道路の整備をすることとなっており、できるだけ早く取りかかってほしいと思っております。また、貝塚公園については、周辺住民の関心も非常に高い状況であります。  
　そこで、優先交渉権者が決定し土地利用が見えてきた中で、貝塚公園の再整備についてもスピード感を持って取り組むべきだと考えますが、今後どのように進めていくのか、お尋ねいたします。

◯副議長（松野　隆）　中村住宅都市局長。

◯住宅都市局長（中村健児）　貝塚公園の再整備に当たりましては、今年度中の再整備の具体的な方針策定に向けて、まずはゴーカートなど他の公園にはない複数の施設の取扱いについて、有識者などから御意見を伺うとともに、地域へも説明しながら進めております。今後とも、地域をはじめ、より多くの市民が使いやすい空間となるよう、遊具の配置などについて地域や利用者の声をお伺いしながら検討をしてまいります。以上でございます。

◯副議長（松野　隆）　藤野哲司議員。

◯41番（藤野哲司）　最近整備されている公園では、民間活力を活用し、公園内に飲食店などのにぎわい施設を導入して、非常に魅力的な公園を整備する事例が増えていると感じております。また、インクルーシブな社会の実現に向けた公園づくりも求められると思います。  
　貝塚公園についても、まちづくりの様々な動きを捉えて、憩い、にぎわい、交流機能のある駅前空間が創出できるよう再整備を進めていただき、子どもからお年寄りまで様々な方が利用しやすい公園になってもらいたいと思っております。また、公募エリアと近接するので、アクセス性の向上を図り、一体感のある整備に取り組んでいただきますよう要望いたします。  
　ここまで九州大学箱崎キャンパス跡地と周辺のまちづくりについて質問をしてきましたが、跡地周辺の箱崎校区では、九州大学箱崎キャンパス移転などをきっかけとして設立された箱崎まちづくり委員会による歴史あるまち並みを生かした景観づくりなど、箱崎の歴史と伝統を守りながら、地域主体のまちづくり活動も活発に行われております。  
　また、今月12日から18日まで、放生会が開催されます。例年どおり、箱崎のまちがにぎわうことを願っております。  
　一方、箱崎キャンパス跡地では、最先端技術による快適で質の高いライフスタイルと都市空間を創出するFukuoka Smart Eastの取組が進められており、優先交渉権者から御提案いただいておるＩＯＷＮを活用した様々なスマートサービスがまちに実装されるなど、先進的なまちづくりが進められていくことになります。  
　これまで1,000年以上の歴史を刻んできた箱崎のまちと九州大学箱崎キャンパス跡地で、これからつくられていく未来のまちが融合し、箱崎のまち全体の魅力となり、多くの人々に愛されるまち箱崎となりますよう切に願っております。  
　最後に、今後の箱崎キャンパス跡地のまちづくりに向けて高島市長の決意をお伺いいたしまして、私の質問を終わります。

◯副議長（松野　隆）　高島市長。

◯市長（高島宗一郎）　九州大学箱崎キャンパス跡地については、地域とともにつくり上げたグランドデザインに基づき都市基盤の整備を着実に進めるとともに、最先端技術による快適で質の高いライフスタイルと都市空間を創出するFukuoka Smart East の実現に向けて取り組んでおります。優先交渉権者からは、グラウンドデザインに沿って緑豊かな都市空間や様々なスマートサービスなどの提案がなされており、引き続き九州大学や地域などの関係者と連携をして未来に誇れるまちづくりに取り組んでまいります。以上です。